

必ず救って、必ず帰る



ふと、空を見上げたときに...
空から人を救ってくれる人がいることを覚えていてほしい

町内にある埼玉県防災航空センター(出丸下郷)に最新鋭の防災ヘリコプター「あらかわ3」「あらかわ4」が新たに導入されました。このことで、センターに配備された防災ヘリは現在運航している「あらかわ2」と合わせて3機となります。

都道府県として、3機の防災ヘリを運航するのは埼玉県が全国初です。そこで、今月は「埼玉県防災航空センター」の概要を紹介いたします。

埼玉県防災航空センターとは

県と市町村と民間会社で防災ヘリコプターの運航を行っています。

県はヘリコプターを所有し、県内各消防本部は消防・防災活動をする航空隊員を派遣します。そして、民間航空会社である本田航空(株)が機体の操縦や整備を行っています。

防災航空隊とは

空飛ぶ消防隊として、上空からの消火・救助・救急活動を行っています。

県内外を問わず発生する災害や水難事故などに、365日・24時間体制で出動します。

県内どこでも15分で到着

センターからは、ヘリコプターで県内どこでも15分で到着

着することが出来ます。ドクターヘリと防災ヘリを組み合わせて、救急業務も実施しています。

「あらかわ3」と「あらかわ4」

「あらかわ2」はフランス製ですが、導入された両機はイタリアのアグスタウェストランド社製AW139です。風速25mの横風に耐えられるなど、耐空性能に優れている最新鋭の機体で、6月から運航を開始しています。



あらかわ3

操縦席

防災航空隊員にインタビュー



埼玉県防災航空隊 竹内 光男隊長

平成23年度の緊急運航実績は?

76件です。火災13件、救助29件、救急22件、災害応急対応3件、他県への応援が9件ありました。

出動が多い事故は?

山岳救助です。尾根からの滑落事故が特に多いです。埼玉県は、山の標高は高くないが、20mくらいの樹木が多く、救出者を見つけないといけません。安全な距離をとって、ワイヤーを長く伸ばす必要があるため、誘導に時間がかかり大変です。

お願いがあります

5月のゴールデンウィークから11月にかけて、レジャーで山登りされるかたが多くなり、滑落事故が増えます。登山されるかたは十分に気をつけてください。3機体制になったことで、今後どう変わりますか? 新たに配備された機種は、



▲訓練の様子

機体が大きいため、パワーや安全性も上がり、救助の対応がしやすくなります。また、北関東を中心として、他県への応援にも対応できます。

昼間のドクターヘリの運航も再開され、常時2機で活動できる体制になります。2件同時に救助が重なっても対応することが出来ます。

訓練の内容は?

県内10か所で実機訓練(飛行訓練)を行っています。飛行時の音に配慮し、訓練地域を変えて行っています。川島町では、週1回の訓練を行っています。周辺の皆さまには、ご迷惑をお掛けしますが、ご理解をお願いします。

苦勞した救助は



副隊長 畑 和広さん

今年1月17日、さいたま市で発生した高層ビル建物火災です。屋上に取り残された人を航空救助したときです。

活動で大変なことは

機内では、会話ができない環境なのでコミュニケーションのとり方に苦勞しています。手信号を覚えたり、目で会話しています。

皆さんへのメッセージ



隊員 2年目 濱崎 仁さん

降り立った以上、そこには助けを求めている人がいます。「命を救うためなら、どんな妥協もしない。決してあきらめない。必ず救って、必ず帰る。」が私たちの信念です。

防災ヘリコプターのお披露目がありました

防災ヘリコプターの「あらかわ3」は埼玉県が購入し、「あらかわ4」は総務省消防庁から無償貸与されました。5月20日には就航披露式が行われました。また、26・27日には一般公開され、多くのかたがたが訪れました。今回は、一般公開で見学に来ていた住民のかたに感想を聞きました。



ヘリコプターの中は、思っていたより広くて、イスも立派だったよ。コックピットには操縦するためのスイッチがたくさんあって驚いた。



色々な体験ができて楽しかった。隊員さんにヘルメットをかぶせてもらったよ。ヘルメットはとっても重いよ。



ヘリコプターが大好きでよく見にくるよ。ヘリコプターが戻ってくると、いつも「おかえり」って言うの。隊員さん、がんばってね。